

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.



アートをたのしむ手がかかり

[交樂 葉山一色]

〒240-0111

神奈川県三浦郡葉山町一色2440番地

046-875-7410

アートあ

ART ACTION by SOYOKAZE Co., Ltd.

「アートあ」は、アートアクションの愛称。はじめてアートにふれてみる。毎日にアートをプラスする。アートをとおしてモノや社会の見え方が変わる。そんな「あ」っとする感動や体験をしていただきたい。その想いからスタートしたプロジェクトです。

CONTENTS

002

WINTER 2023

- 03 アートの紹介 — アートの風 —
- 07 BGMの紹介 — 音のそよぎ —
- 11 香りの紹介 — 香り立つ・・・ —
- 13 フラワーの紹介 — 季節を愛でる —
- 15 寄稿エッセイ
 - 音楽家のための憩の家（カーサ・ヴェルディ）
[クラシック・ソムリエ 田中 泰]
- 17 イベントの紹介
 - アートの対話型鑑賞会

発行／株式会社
編集長／サトマキ（ ）
編集・構成／栗原 勲（RED）、下村 尚明（ ）
アートディレクション・デザイン／蔵持 一石（RED）
校正／村上 昌寿（交楽 葉山一色）

アートアクション・タイムズ 編集手記

こんにちは。葉山のみなさんにはおなじみ、サトマキです。

さて、夏からはじまった アートアクション、みなさまの施設・交楽 葉山一色では、現代アートの展示、フラワーデザイナーさんによるお花、アロマセラピストさんによる香り、プロの選曲家さんによる多彩な音楽、そしてファシリテーターによる対話型鑑賞を実施しました。今回はその広報誌二号目です。

対話型鑑賞、いかがでしたか？毎回異なるテーマのもと、名画と言われる絵画をみなさんで鑑賞して、観るだけでなく、対話することによって鑑賞を深めましたね。みなさんが思ったこと、思い出したこと、感じたこと、なんでも話してくださってありがとうございました。他の方の意見を聞くことで、「こんな考え方、感じ方もあるのか！」と毎回思いもかけない意見が聞けましたよね。「そう言われれば…」と別の見方に気づいた方、それでも私はこう思う、など、その意見も様々だったと思います。対話型鑑賞を楽しんでくださったら幸いです。

現代アートの展示、フラワーデザイナーさんによるお花、アロマセラピストさんによる香り、プロの選曲家さんによる多彩な音楽はまだ続きます。ぜひ楽しまれてくださいね。



FINE ART

アートの紹介

アートの風

みなさんの施設に飾ってる作品は、現代アートといって、現代（今、同時代を生きている）のアーティストさんが描いた作品です。これらはみな、個人のコレクターさん（所有者さん）からお借りしてきた作品群です。その所有者さんの、このコレクションに込めた思いを伺って来ました。今回は上島亨さんです。



art collector

上島 亨 さん

株式会社ステキ 代表取締役社長

画家であった祖母の影響で小さい頃から絵が好きでした。アートを買うきっかけは、自宅を建てる際にインテリアとして飾りたいと思ったことですが、以降、アート

が本当に好きになり8年ほどかけて400点ほど所有しております。最近は活動支援の意味も込めて若手作家・美大生の作品をメインにコレクションしています。



FINE ART 001

石山 未来
Miki Ishiyama

Powerful Dejection

530×333mm Oil on canvas 2022年

作家プロフィール：1998年札幌市生まれ。2018年 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻 入学、2022年現在、東京藝術大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野修士課程 在籍中。あくまでもベーシックな手法で絵画を描くことで、個人的体験や経験を絵を描く行為と同化させていくような作家独自の絵画空間を拡張していく。



art director サトマキ

タイトルをみる。

そこから、あなたのアートの旅がはじまります。



FINE ART 002

新井 碧
Midori Arai

Silhouette #13

410×530mm Oil, pastel on canvas 2021年

作家プロフィール：1992年茨城県生まれ。2015年東京造形大学卒業、2022年京都芸術大学修士課程修了。無意識的な動作の痕跡に、身体の有限性と絵画の無限性を備える。共生の時代であるからこそ、生命と時間の在り方について問う。

みなさん、こんにちは。サトマキです。前の号で、現代アートについて少し話をしました。今回は、現代アート作品を楽しむに観る方法をお知らせします。「キャプション」、ありますよね。作品の下に何かが書いてある、小さな紙です。そこには、アーティスト名、作品名、制作年、サイズ、メディア（その絵画が何から出来ているか）が書いてあります。例えば、新井碧さん「Silhouette-13」（ダイニングに向かう右手の絵画）。これは英語でシルエットと読みます。影法師のことですね。なんだか不思議な抽象画が、誰かの何かの影法師だと思ふと、何の影法師だろう？と想像が湧きませんか。

こんな風に、タイトル（題名）ひとつとっても、その作品をいろいろ考えることが出来るのです。もちろんタイトルで分からないタイトルもあります。Unitle（無題）とかUnnamed（名無し）とか数字の羅列とか。どうして無題なんだろう、何が書いてあるんだろう、そこから絵のことを考えて欲しいから、作家はそう付けているのかも知れませんが、みなさんと私が飾った現代アートについて話をすると、分かりにくい、理解が難しい、という話を聞きます。アート、とつづきにくいですよね。良く分からないですよね。それで良いんですよ。アートを分ける・理解する必要なんて無いのです。でも、みなさん、何が描かれているのか興味はおありのようですよ。その時、手助けになるひとつが、「タイトル」です。世界で最も有名な絵画のひとつレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナリザ」、原題は〈La Gioconda〉ですが、どうして日本ではモナリザと呼ばれているか。それは、ダ・ヴィンチがフラ

ンチエスコ・デル・ジョコンドから妻モナリザの肖像画制作の依頼を受けたからだそうです。Monaは私の貴婦人との意味だそうです。

こんな感じで、私が挙げた事例もそうですが、タイトルには、その絵の由来や何が描いてあるかを紐解く鍵が詰まっているのです。解説は何も無いですが、どうぞタイトルから、アートを感ずる考えるきっかけにしてみてください。まずはいったん、自分が興味があるか、どう感じるかを考えてみる、それだけに集中してください。そしてどうしてそう思う？と考えてみてください。何か良いな〜と思ったら、タイトルを見てみてください。そこから、あなたのアートの旅が始まります。

MUSIC

BGMの紹介

音のそよぎ

この交響葉山一色には、音楽セレクトーさんたちが厳選した楽曲が、BGM（バック・グラウンド・ミュージック）として流れています。
葉山オリジナルセレクトの1週間をどうぞお楽しみください。

MUSIC SELECTOR

01



クラシック・ソムリエ

田中 泰さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スプートニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

MUSIC SELECTOR

02



音楽家

蓮沼 執太さん

1983年、東京都生まれ。「作曲」という手法を応用し物質的な表現を用いて、インスタレーション、パフォーマンス、彫刻、映像、プロジェクトなどを制作する。アジア・カルチュラル・カウンシル（ACC）のグランティ、文化庁・東アジア文化交流史に任命されるなど、国外での活動も多い。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

MUSIC SELECTOR

03



ライター

大石 始さん

地域と風土をテーマとする文筆家・選曲家。旅と祭りの編集プロダクション「B.O.N」主宰。著書に『盆踊りの戦後史』（筑摩書房）、『奥東京人に会いに行く』（晶文社）、『ニッポンのマツリズム』（アルテスパブリッシング）、『ニッポン大音頭時代』（河出書房新社）など。オンラインラジオ「WAH! Radio」で各地の民族音楽を紹介する番組「folkloric」を担当中。現在の連載に月刊「東京人」の「まちの記憶、音の風景」など。

producer

清宮 陵一さん

NPO法人トッピングイースト理事長/合同会社ヴァイナルソユーズ代表

1974年東京都生まれ。音楽プロダクション・ヴァイナルソユーズではさまざまな音楽家らと協業する傍ら、特別なヴェニューや公共空間でのパフォーマンスを多数プロデュース。トッピングイーストでは地元・東京都に根差したプログラムを展開。2021年『隅田川怒涛』を実施。

今回お聴きいただく音楽は、一週間をひとつのサイクルとして、1日の目覚めから眠りまでの時間を意識できるつくりにしました。また、情景が浮かんで、まるで日本中を世界中を旅する感覚を持てたり、ときに人生を懐かしみ昔話に花が咲く、誰もが知る曲もかかります。プロの選曲家による多彩な音楽をお楽しみください。

医療的視点での
アドバイザー



医師、医学博士

稲葉 俊郎さん

軽井沢病院 院長・総合診療科医長、信州大学社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任（山形ビエンナーレ2020 芸術監督 就任）
単著『いのちを呼びさすもの』、『いのちのちの いのちへ』（アノニマ・スタジオ）など。

ライター

大石 始 さん

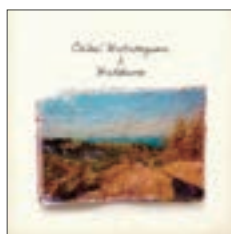
SELECT 主な楽曲



入所者の方々が日々暮らす空間でどんな音が鳴っていたら心地いいだろう？ そんなことを考えながら作品を選ばせていただきました。朝は爽やかな空気に溶け込む静物画のような作品を。昼は他の入所者の方との会話のきっかけになるかもしれない童謡やわらべうた、民謡を。夜は時に健やかな眠りへと誘い、時に懐かしいあの時代へタイムスリップする作品を。皆さんの暮らしにちょっとした色合いを加えることができれば、これほど嬉しいことはありません。



■曲名:1 ■作曲家:AOKI, hayato
■主な演奏家:AOKI, hayato ■録音年:2020年 ■アルバム:MITATE2



■曲名:It is, it isn't ■作曲家:Chihei Hatakeyama & Hakobune
■主な演奏家:Chihei Hatakeyama & Hakobune ■録音年:2014年



■曲名:波 ■作曲家:冥丁 ■録音年:2018年 ■アルバム:夜分



■曲名:Circle Of Life ■作曲家:原摩利彦 ■主な演奏家:原摩利彦 ■録音年:2017年

音楽家

蓮沼 執太 さん

SELECT 主な楽曲



音楽は目に見えないものではありません。一日の時間の変化に寄り添うように、な万世不刊な楽曲をセレクトさせてが空間におとずれて欲しいと思って

すが、空間を彩る力があります。一空間の彩りを淡く変化していくよういただきました。常に新鮮な空気感



提供:日本コロムビア

■曲名:ジムノペディ 第1番 ■作曲家:エリックサティ ■録音年:2017年 ■アルバム:エリックサティ、新・ピアノ作品集



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thembi ■作曲家:Pharaoh Sanders ■録音年:1971年 ■アルバム:Thembi



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:Thursday Afternoon ■作曲家:Brian Eno ■録音年:1985年 ■アルバム:Thursday Afternoon



提供:日本コロムビア

■曲名:小さな空 (Instrumental) ■作曲家:武満徹 ■主な演奏家:Choro Club ■録音年:2011年

クラシック・ソムリエ

田中 泰 さん

SELECT 主な楽曲



まずは、クラシック史上最大のヒット曲の1つ「四季」を楽しんだ後は、ヘンデルの名作「メサイア」へ、名高い「ハレルヤ・コーラス」が心にしみます。同じヘンデルの「ハープシコード組曲」は、同年生まれのJ.S.バッハ作品に引けを取らない素晴らしさ。キース・ジャレットの美しいピアノが引き立ちます。そして最後は20世紀最大のクラシックイベントと謳われた「3大テノール」の華やかな歌声で締めくくり。



提供:ワーナーミュージック・ジャパン

■曲名:ヴィヴァルディ:協奏曲集『四季』/Vivaldi:Four Seasons ■作曲家:ヴィヴァルディ/Vivaldi ■主な演奏家:アンネ＝ゾフィー・ムター Anne-Sophie Mutter(ヴァイオリン & 指揮)、トロンハイム・ソロイスト Trondheim Soloists ■録音年:1999年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ヘンデル:オラトリオ「メサイア」(全曲)/Messiah, K. 572 ■作曲家:ヘンデル/George Frideric Handel ■主な演奏家:ゲオルグ・ショルティ Georg Solti(指揮)、シカゴ交響楽団 ■録音年:1997年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ハープシコード組曲集 / Keyboard Suite ■作曲家:ヘンデル / George Frideric Handel ■主な演奏家:キース・ジャレット Keith Jarrett(ピアノ) ■録音年:1993年



©ユニバーサル ミュージック

■曲名:ベスト・オブ・3大テノール / The BEST of 3TENORS ■作曲家:ドヴォルザーク / Dvořák ■主な演奏家:ホセ・カレーラス José Carreras、プラシド・ドミンゴ Plácido Domingo、ルチアーノ・パヴァロッティ Luciano Pavarotti ■録音年:1990年、1994年、1998年

朝の香り「朝の森」



ローズマリー



レモン



フランキンセンス

朝の森のエネルギーを深呼吸

朝の森には、朝露に輝く植物の息吹が満ちています。足もとから、ふくよかな土の香りが立ちのぼり、思わず深呼吸したくなります。グリーンで爽やかなローズマリーやレモンには、心をリフレッシュさせ、頭脳を活性化させて思考をクリアにする作用があるとされます。朝の清々しい森の香りで、最高の朝をスタートしましょう。

夜の香り「夜長の寛ぎ」



ラベンダー



オレンジ



パチュリ

上質なプライベートタイムを

文学や芸術などの世界に心ゆくまで浸る、上質なプライベートタイムをイメージした香りです。内面が豊かに満たされる贅沢なひととき。ラベンダーやシトラスの香りがリラックスタイムに寄り添い、大地のように温かなパチュリーの香りが明日へのエネルギーとなって上質な睡眠をもたらします。

AROMATHERAPY

香りの紹介

香り立つ…

玄関ホールと湯上りラウンジで、何やら香っていませんか？
良い香りだと思われましたか？
うなんです、実は、今回、新たに香りを導入しました。
実はこの香り、香りのプロが施設に合わせて調香（香りを調整すること）してくれた、特別な香りなのです。これから、季節に合わせて、毎回少しずつ香りを変えて、みなさんにお届けします。



IFAアロマセラピスト
アロマスペースデザイナー

大橋 マキ さん

頬に触れる空気に、ふと冬の匂いを感じた経験はありませんか？そんなとき、目に飛び込んでくる風景や色、温度、手触りなども香りのヒントにしています。「朝の森」は、ローズマリーやミント、ライムなどの爽快感に、スパイシーなハーブと樹脂特有の重さが加わることで、落ち葉が土にかえっていく豊穡の季節を感じさせます。香りを調合するときは、精油の効能や身体性も意識します。「夜長の寛ぎ」は、安眠を促すラベンダーとシトラスの優しい甘さのなかに、大地を感じさせるパチュリという精油を加えることで包容力や温かみを添えています。

大橋 マキ Maki Ohashi / IFAアロマセラピスト / アロマスペースデザイナー 放送局を退職後、英国に留学。植物療法を学ぶ。アロマセラピストとして6年間の病院活動を経て、アロマ空間演出の他、精油の地産地消や企業ブランディングにも従事。自身が代表を務める一般社団法人はっぶでは、園芸療法を用いた認知症ケアや農福連携にも取り組む。アロマブランド「aromamora」では季節のブレンドを製作。執筆、ラジオ出演、講演多数。

FLOWER

季節を愛でる

フラワーの紹介

このページでは、施設に飾られているお花を紹介しています。

毎月、その時節に合わせて旬なお花を選んでデザインしたフラワーアレンジメントを飾っております。

身近にお花がある日常を通じて、季節を感じていただきたいと思います。



フラワーデザイナー&スタイリスト

松本 由利 さん

日本には四季折々の花々、木々があります。季節を愛で、感じ、味わう…食や文化と同じように花の装飾でも季節感を表現します。そのため、フラワーアレンジメントには、なるべく旬の花を使うようにしています。写真は、秋から冬にかけて飾ったアレンジメントです。ずっと伸びているグリーンはニューサイラン。シンプルでモダンなデザインでありながら、明るい色合いのトルコキキョウを使うことで優しい雰囲気仕上げました。花のある生活で、どうぞ季節をお楽しみください。

松本 由利 Yuri Matsumoto / フラワーデザイナー & スタイリスト

英国人デザイナー、ジェーンパッカーの元でデザイナー、インストラクターを務めたのち独立。「花と食」「花とインテリア」といったさまざまな分野とのコラボレーションレッスンを企画運営。スタイリッシュな花を得意とする。フラワーショップkusakanmuriが主催する「草冠の学校」でも講師をつとめる。



Photo by taxis

イタリア史上最も 重要な人物と評された ジュゼッペ・ヴェルディ

みなさんこんにちは。施設内に流れる音楽はいかがでしょう？ 僕が担当するクラシック音楽も気に入っていただけたらとても嬉しいです。さて、連載2回目となる今回は、イタリアのオペラ作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813―1901)についてです。

19世紀を代表する作曲家ヴェルディは、主にオペラを軸に作曲活動を行い、「オペラ王」の異名を持つイタリア・ロマン派音楽の中心的存在です。代表作としては、『ナブッコ』、『リゴ

レット』、『椿姫』、『アイーダ』などのオペラ作品のほか、イタリアの文豪アレックスサンドロ・マンゾーニ(1785―1873)の死を悼んで作曲された『レクイエム』などがある名です。彼が遺した作品の数々は、現在も世界中のオペラハウス(歌劇場)で演じられ、『アイーダ』の大行進曲がスポーツ・イベントの応援に使われるほか、『ナブッコ』の「行けわが思いよ、金色の翼に乗って」はイタリア第二の国歌として愛されるなど、ジャンルの枠を超えた広がりによって、大衆文化に深く根付いています。ヴェルディが活躍した当時、イタリアは統一運動の真只中にあり、祖国イタリアへの愛を高らかに歌い上げたヴェルディ作品は、統一運動のシンボル

とみなされるようになったのです。その結果ヴェルディは、イタリア史上最も重要な人物と評され、ユーロに変わる前のイタリア紙幣(1000リラ)に肖像が採用されるまでになったのでした。

私財を投じて建設した 音楽家のための高齢者住宅 カーサ・ヴェルディ

そのヴェルディが遺したもう一つの遺産にして、「自らの最高傑作」と語ったのが、ミラノにある「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」です。これは、恵まれない音楽仲間の晩年を憂いたヴェルディが、私財を

投じて建設した音楽家のため的高齢者住宅です。施設の運営資金には、ヴェルディの死後50年に及ぶ作品の著作権が当てられています。著作権が切れた1962年以降は、多くの篤志家の援助によって施設は存続。現在も多くの音楽家たちが暮らしています。入居資格は、ヨーロッパ市民で65歳以上のアーティスト、作曲家、指揮者、歌手、オーケストラ団員、音楽教師、合唱団員、バレエダンサーおよびその配偶者、未亡人が対象で、入居費用は年金の額などによって決まるのだとか。今では、入居者たちが施設内で音楽を楽しむほか、音楽家を目指す若い学生たちとのコミュニケーションの場にもなっているというのですから素敵です。これはまさに、今の時代を予見したかのような、ヴェルディの「先見の明」と言えるでしょう。日本においても、芸

術や文化、スポーツ等、共通の価値観がコミュニティ形成に重要な要素となることが理解され始めています。ヴェルディが思い描いた「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」こそは、まさにそのモデルケースと言える存在感を放ち続けています。そして、ヴェルディ自身もこの施設の敷地内に、愛する妻とともに静かに眠っています。

*この「音楽家のための憩の家(カーサ・ヴェルディ)」をモデルとして制作されたのが、ダスティン・ホフマン監督による2012年公開のイギリス映画『カルテット！人生のオペラハウス』です。興味のある方はぜひご覧になってみてください。



クラシック・ソムリエ
田中 泰さん

「びあ」入社以来一貫してクラシックジャンルを担当。2008年「スポーツニク」を設立して独立。J-WAVE「モーニングクラシック」ナビゲーター、JAL「機内クラシック・チャンネル」構成、「アプリ版びあ」クラシックジャンル統括&連載エッセイなどを通じ、クラシック音楽の普及に努めている。一般財団法人日本クラシックソムリエ協会代表理事。

ART
ACTION
EVENTアートの
対話型鑑賞会

グループで一つの作品を見ながら、感じたこと考えたことを話し合うことで、作品の見方を深めていきます。知識は必要ないため、美術鑑賞が苦手だと思っている人も楽しく参加できます。みて、考えて、話して、聴くという行為を繰り返すことで、長期的には思考力の向上が報告されています。絵画鑑賞が初めての方も、お気軽にご参加ください。

#1 物語を楽しむ

12/13(火) 13:30～15:00
ばしょ:1F カフェ

1回目のテーマは「物語を楽しむ」です。鑑賞の初心者はアート作品の中から物語を見つけ、物語を語る傾向があることがわかっています。初めて体験する対話型鑑賞では誰もが有しているこの力を使って、作品に描かれている物語を想像し、語り合います。1作目のジョルジュ・ラ・トゥールの《女占い師》と2作目の月岡芳年《藤原保昌月下弄笛図》のどちらも、登場人物の間にスリリングな駆け引きがあります。今まさに何が起きているのか、次の瞬間に何が起こるのかに心が奪われ、対話に引き込まれることになるでしょう。

#2 母と子

12/27(火) 13:30～15:00
ばしょ:1F カフェ

2回目は「母と子」の姿をテーマにします。1作目はルノアールの柔らかな色と光に満ちた幸福感溢れる《母子像》。2作目は静けさや純粋さ、憂鬱といったさまざまなイメージが喚起されるピカソ「青の時代」に描かれた《海辺の母子像》。3作目は1930年代、世界恐慌のために出稼ぎにきた母と子の姿を撮影したと言われているドロシー・ラングの《移民の母》。子を慈しみ、守ろうとする母親の姿を語っていきます。

せんせいのご紹介

三ツ木 紀英 さん
(みつきのりえ)

NPO法人 芸術資源開発機構(ARDA) 代表理事



#3 印象派

23年 1/10(火) 13:30～15:00
ばしょ:1F カフェ

3回目は世界中の人が愛する「印象派」をテーマにします。1作目は印象派の画家たちに多くのインスピレーションを与えた、マネの傑作《フォーリーベルジュールのバー》。パリの賑やかな酒場の煌めきに満ちた空間と微妙な心の機微を味わいます。2作目は移りゆく自然の光と影を画布にとどめた、印象主義の体現者・モネの《日傘を指す女》。3作目は当時の最新の色彩理論を研究し、新しい絵画技法を発明した画家スーラの《クールブボワの橋》。写真ができた時代に、画家たちが発明した画期的な絵画をみていきます。

#4 音

1/17(火) 13:30～15:00
ばしょ:1F カフェ

4回目は、聴覚「音」をテーマにします。1作目は葛飾北斎の《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》。2作目は一転して、ルソーの《夢》。鬱蒼としたジャングルの中に夢のように現れた横たわる女性、笛を吹く人物と動物たち。3作目のビュフェの《モーツァルト》は、鍵盤や弦楽器、楽譜といったモチーフだけでなく、色や形や筆致から音が聞こえてきそうです。

#5 自然と人

1/24(火) 13:30～15:00
ばしょ:1F カフェ

5回目のテーマは「自然と人」。1作目の歌川広重の《大橋あたけの夕立》では、急に降り出した夕立に、橋を走って駆け抜ける人々の様子や暮らしぶりから日本の自然観を楽しめます。産業革命後の西洋では改めて自然を見直し、自然にむけた憧憬も生まれました。2作目はゴーギャンの《No te aha oe riri (Why Are You Angry?)》では、タヒチの生命力溢れる自然と人々の暮らしに思いを馳せます。3作目はゴッホの《星月夜》では、満天の星空とその下に広がる村の風景を語ります。

#6 植物

1/31(火) 13:30～15:00
ばしょ:1F カフェ

最終回の6回目は「植物」。すべて日本人作家の作品です。1作目の歌川広重の《名所江戸百景:亀戸梅屋敷》では、力強く天に向かって枝を張っている梅の木とその景色、2作目の藤田嗣治の《バラ》では、花瓶に生けられたバラの花の刺々しさや、赤黒い色味から喚起されるイメージを、最後を締めくくる3作目の柴宮忠徳の《樹と石のある風景》では、こんもりと緑を茂らせた大木が湛える生命力を語ります。

